

『「読む」からはじめる 日本語会話ワークブック』実践のレシピ ①

「言いたいことが言えるようになるための実践」

【レシピの作成者】 佐々木良造

【キーワード】 ワールドカフェ形式、Padlet、「名言」の手書き、考える時間と話す時間、流暢性

【実践機関】 日本国内の大学

【授業種類】 交換留学生向け日本語科目

【対象者（人数や日本語能力、属性など）】 交換留学生 15 名（非漢字圏 13 名・漢字圏 2 名、N3 以上 N2 未満）

【1 授業時間数と実践回数】 1 コマ 90 分、週 1 回、15 週

【到達目標】

1. 読んだことをきっかけとして学習者が自分で考えたこと、言いたいと思ったことが言えるようになる。
2. グループワークやワールドカフェ形式のディスカッションを通して、多様な視点に触れ、協調性を養う。

【評価方法】 課題提出による形成的評価

【15 週の内訳（大学など）】 第 1 週オリエンテーション、第 2 週から 15 週まで授業

【1 回の授業の進め方】

1. 出席確認

遅刻・欠席時は適宜メンバーを入れ替える

2. タスク 1：再話（1 人 2 分×3 人）

事前課題：ショートストーリー 3 編のうち 1 編の要約（200～300 字）提出

目的：授業内での読了時間の個人差を考慮し、事前に内容を把握してグループワークに円滑に参加できるようにする。

3. タスク 2 とタスク 3：グループワーク（考える時間 5～7 分、話す時間 5～6 分）

日本語で深く考え、意見交換する。

4. タスク 4：グループワーク（考える時間 5 分、話す時間 5 分）

目的：タスク 2、3 の内容をさらに深掘り、発展させる。

5. ワールドカフェの準備（5 分）

グループで選んだ「名言」を紙に書き、スマホで写真を撮って、Padlet にアップロードする。「旅人」役を決める。

6. ワールドカフェ形式のグループ間移動、名言の説明（6 分）

「旅人」は他グループ（旅先）に移動し、自分のグループの「名言」を説明し、旅先の「名言」の説明を聞く。

旅先のグループの「名言」を書いた紙を受け取り、自分のグループの「名言」を置いて自分のグループに戻る（お土産交換）。

7. 元のグループでのシェア

「旅人」は持ち帰った名言をメンバーに説明する。

他のメンバーは「旅人」が不在中に聞いた名言を説明する。

8. 名言をクラス全体で共有

Padlet に投稿された「名言」をプロジェクターで投影する。

9. 事後課題の確認、グループ替え、宿題の割り当て

宿題：ショートストーリー3編のうち1編を要約(3人グループで1人1編担当)する。

【レシピのアレンジ案】

- その場で読んで理解できる場合、要約課題はなくてもいいと思います。
- グループ構成：3人ではなく4人のほうがいいかもしれません（人数を増やす場合、タスク1～3の時間を延長する）。
- 発言が少ない学生への対応：スマホを見ているなど、話し合いに参加していない場合は注意します。
- 母語や英語での会話：止まらないようであれば、話し合いの間は日本語で話すよう促します。
- Padlet.com への投稿：学習者が意図しない不適切な表現が含まれるかもしれません。投稿を管理者（授業担当者）の承認制にすることもできます。Padlet のオプションで AI による自動判定もできますが、不適切と判断された理由がわからないこともありました。AI による投稿の適・不適の判定を利用する場合、「不適と判断された理由を教室のみんなで考える」といった活動を追加することを前提とした運用をする、といった善後策が必要かもしれません。
- Padlet.com の利用：宿題提出の場として利用できます。授業終了後も一定期間、閲覧可能（書き込み不可）にすることもできます。